

多角的に比較・判断し行動できる情報モラル授業の実践

鳥取県立鳥取工業高等学校 中林 正樹

近年、社会の急速な情報化により、ネットを介したトラブルが増している。このような中で、教科「情報」において、メディアリテラシー、関係する法律や著作権等を指導しているが、実際の問題に直面した際、知識の習得のみでは、学習内容を活かした適切な行動ができるかどうか疑わしい。そこで、実際の問題に直面した際でも、複数の情報を多角的に比較し、判断して問題解決を図るよう、単元構想と授業展開を考え、実践し考察した。

1. はじめに

近年の社会の急速な情報化により、子ども達のネットを介するトラブルが増えている。このトラブルは地域差がなく、本県の生徒たちも例外ではない。これにより、教科「情報」における情報モラル指導が重要となり、校内からも教科への期待が高まっている。

このため、情報モラル授業は、知識の習得のみならず、実際の問題に対し、適切な行動ができるものでなければならない。しかし、ネットの世界は匿名性があり、「わからなければ、大丈夫」という声も聞こえ、適切な行動がとれていないこともありうる。そこで、生徒たちが問題に直面した場合でも、適切な判断・行動ができるよう、指標となる授業展開を考え、実践・考察した。

なお、本校では、アクティブラーニングを推進しており、生徒が主体的に問題を発見し、解決できる単元構想も考えた。

2. 研究の目的

最近の子ども達のトラブルは、ほとんどの場合、SNSなどネットを介して起こっている。しかし、他教科の教員からは、「ネットを介するトラブルは、どのように対応して良いかわからない」という声をよく聞く。このような状況からも、教科「情報」に対する期待が高い。

本校は、「情報の科学」を設定しており、情報モラル指導は、情報リテラシー、関係する法律や著作権など、合計10時間をかけている。当然のことながら、知識の習得のみでは、生徒が実際の判断しづらい問題に直面した際、適切な判断ができない。そこで、問題に直面した時でも、主体的に情報を習得し、多角的に比較・判断できるよう、単元構想と授業展開を考え、実践・考察することとした。

3. 単元構想

本校では、アクティブラーニングを推進しており、単元をとおして、生徒が主体的に問題を発見し、解決出来る単元計画と授業展開とした。

さらに、実際の問題に直面した際を想定し、単元の最後に「総括学習」を設けた。「総括学習」では、実際に起こりうる判断しづらい問題を設定し、複数の情報を多角的に比較・判断して問題解決を図る展開とした。

表1 単元計画表

	主な内容	時間
①	社会の情報化と生活の変化	2時間
②	ユニバーサルデザイン	1時間
③	セキュリティの理解	2時間
④	メディアリテラシー	1時間
⑤	SNSと関係する法律の理解	2時間
⑥	著作権の理解	1時間
⑦	総括学習	1時間

単元の流れは、「総括学習」に向けた内容とした。

「メディアリテラシー」では、メディアを介して得られた情報の背景や特性を読み解くことができる内容とした。「SNSと関係する法律の理解」では、安易な行動から違反するかもしれない法律を挙げ、法律認識の重要性を理解する内容とした。

また、単元評価を表2のとおりとした。

表2 単元評価

	S	A	B	C
評価	問題に直面した時、問題を認識し、多角的に比較・判断したことを友人に助言できる。	問題に直面した時、問題を認識し、多角的に比較・判断し行動できる。	問題に直面した時、問題点を認識できる。	問題に直面した時、安易な行動をしてしまう。

4. 総括学習に向けた取り組み

4.1 メディアリテラシー

メディアを介して得られた情報は、そのまま伝えられているとは限らない。一部のみを切り取られて伝えられていることもありうる。この体験する授業を行った。

- ① 1枚の写真を上下で2つに分割し、1ペアごとに上側下側どちらかの写真を持つ。
- ② 個人で、写真のタイトルとメディアになったつもりで想像し、説明文を書く。

- ③ペアで写真のタイトル説明文を発表用紙に記述する。
- ④上側と下側どちらかの写真を持っているペアをグループで混在させ、発表する。

写真の一部では、まったく違う説明文となることを実感させた。情報を鵜呑みにせず、関連情報も収集して判断する必要性を理解させた。

4.2 SNSと関係する法律の理解

ネットの世界は匿名性があり、「わからなければ、大丈夫」という声が聞こえ、一時の判断の誤りから、法律を違反してしまうこともある。そこで、授業は、あるブログに関する生徒同士の会話を例に挙げ、その会話から起こりうる問題の提起と関係する法律について調べ、グループで考える内容とした。

生徒A：サッカー選手情報交換ブログって知っている？
 生徒B：聞いたことあるけど。
 生徒A：そこで、サッカー選手の長〇選手の情報交換をしているんだよ。写真とか動画とか載っているし。
 生徒B：すごい。
 生徒A：ただし、メールアドレスを登録しないとイケないよ。
 生徒B：写真とか欲しいなあ。
 生徒A：僕の兄のIDがあるからそれ使いなよ。

図1 「サッカー選手情報のブログ」教材

身近な会話を例にすることにより、生徒が軽はずみな行動で法律を違反する危険性を理解させた。

5. 総括学習

実際の問題に直面した際、判断に困る場合が良くある。さらに、ネットを介した場合、匿名性があり「わからなければ大丈夫」という安易な判断をしてしまう。このような場合、必要なことは、これまでの学習を踏まえ、必要な情報を収集し、総合して判断することである。この力を養うために「総括学習」では、判断しづらい問題を挙げ、実際の場合でも、適切な行動ができるよう指標となる展開とした。

テーマ「判断に困った場合どうする？」

問題提起「友人がレンタルしたCDを借りて、個人で聞くためにコピーしていい？」

5.1 複数の情報収集

- ①（複数の情報収集の必要性）ペアを作り、次の視点で別々に情報収集し、意見をまとめる。
 - ・著作権等の法律に違反していないか。
 - ・レンタル会社の規約はどうか。
- ②（情報の信頼性を高める）ペアを離れ、同じ視点同士で情報を共有し、それぞれの意見を深める。

5.2 多角的に比較・判断

- ③（信頼する人との相談の必要性）ペアに戻り、それぞれの視点での意見を交換し、ペアの意見をまとめる。
- ④（モラル観を共有）グループになり、各々のペアの意見を発表する。

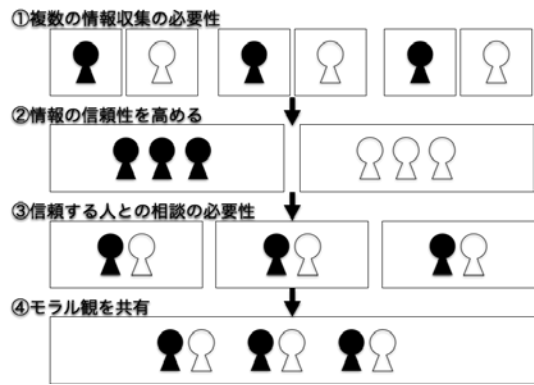


図2 学習の流れ

上記の授業を実施した。



写真1 ペアの意見交換

写真2 グループで発表

授業後の生徒の感想

- ・自分だけで判断せず、聞いたり調べたりする。
- ・とても参考になった。自分のすることに責任を持った方がいいと思った。
- ・自分がこのようなことに遭遇したら、良く調べてからしたい。

6. 考察

単元評価を生徒の感想から読み取ると、次のようになった。

表3 授業後の単元評価

評価	人数	割合
A	24人	39%
B	33人	52%
その他	6人	9%

この単元で、ほとんどの生徒が、実際に判断に困る問題に直面した際に、安易は行動に出るはいけないことを理解したと思われる。

しかし、実際の問題は、さらに複雑で深刻である。このため、「総括学習」では、常に友人との協力の大切さを実感できる内容とした。もし、判断しづらい問題に直面した時やトラブルにあってしまった時には、1人で抱え込まず、他の人に相談し、協力して解決して欲しい。

参考文献

- (1) 文部科学省「指導要領解説情報編」(2010)
- (2) 東京大学「協調が生む学びの多様性 第3集」(2013)
- (3) 鳥取県教育委員会「高等学校学力向上推進委員会報告書」(2013)
- (4) 東京書籍「情報の科学」(2015)